

講義名	対) アジアビジネス論		
担当教員	上田 義朗		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2 時限	授業形態	講義
履修開始年次	2 年生	単位数	2
		備考	
主題と概要			
新型コロナウイルスの世界的な拡大は、日本を含むアジア諸国に大きな影響を及ぼしています。中国と米国の貿易摩擦もアジアのサプライチェーンを変化させる要因です。これらをビジネスから見れば、大部分の企業は売上減少となりますが、株価上昇など好機になる場合もあります。			
他方、中国やインドの独自技術の開発と発展は、先進国に向けた「リパースイノベーション」という状況を生んでいます。またIoTやSNSの発展は、アジアのビジネスモデルを変化させ、たとえば個人で容易に起業・創業できる時代にもなっています。このようにアジアのビジネス環境は激変しています。			
本講義は、このようなアジア諸国の政治・社会・経済の情勢を「鳥の眼」から包括して把握し、企業経営レベルでは「虫の眼」から経営・ビジネスのノウハウや裏話を紹介し、これからのアジアビジネスの大きな動向（＝潮流）を「魚の眼」から検討したいと思います。			
本講義の教材は、以下で紹介する独立行政法人「ジェトロ」・「アジア経済研究所」のネット情報です。だれもがいつでも閲覧できる教材を採用します。講義の方式は、対面講義を録画してオンラインで流すのではなく、事前にオンライン講義を流して、それを「予習」として、その解説や質疑応答を対面講義で実施します。			
アジアビジネスが激変すると言っても、実際の講義が今まで通りに不変では、その主張は「言うだけ」の知識にすぎません。それを学んだら実行する。これが実学です。このような「ハイブリッド講義」の実践を体験・協力してくれる受講生を歓迎します。			
到達目標			
１．アセアン諸国・アセアン共同体について理解が深まります。			
２．アジアにおける日本経済や日本企業の特徴が理解できます。			
３．ベトナムのビジネスの歴史・実態・課題を具体的に学ぶことができます。			
４．公的機関であるジェトロとアジア経済研究所の信頼できる情報を自由に活用できるようになります。			
５．アジアで活躍できる人材を育成することが長期的な目標です。			
提出課題			
レポートを何回か書いてもらいます。 少し長いレポートは提出期限を定めます。短い意見やコメントは「レスポん」で提出してもらいます。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
対面講義とオンライン講義の中で言及します。			
対面講義では、もちろん事前承諾を受けますが、学生レポートも教材にすることもあります。			
この公開については、個人情報などの問題ではなく、自分の成果物を公開して改善する。普通の企業では普通に実施していることと思います。この学生には、もちろん加点します。			
評価の基準			
発言・レポートを総合して成績を評価します。			
特に出席は取れません。つまりオンライン講義だけ受講しても評価対象となります。			
対面講義では、発言した場合に得点になります。オンライン講義では、メールでの意見の発表を対面講義の発言として取り扱います。			
履修にあたっての注意・助言他			
１．対話式の講義をしたいと思います。			
２．予習をオンライン講義、それに基づく対話や復習を対面講義とします。ただし、これは原則。つまり理想です。この理想のために、教員も受講生も一緒に努力してみましょう。			
３．アジアの現場経験をされた実務家を外部講師として招聘することを予定しています。			
３．講義では、私自身の現在進行形のベトナムでの活動を紹介します。			

教科書

.使用しない。